自分を生かしてくれる すべてに感謝

唐津教会　市川龍男さん

市川さんは、雅号を龍仙と称する、「色鍋島」の陶芸作家。「色鍋島」は、約400年前、鍋島藩の御用窯として佐賀県伊万里市大川内山に誕生した。宮中や将軍家へ献上されるなど、江戸の元禄年間のころには日本における磁器の最高峰として称えられた。

市川さんは、最盛期であった元禄の器に近づけるべく挑戦する一方、平成の鍋島を創り出すことも自分の使命と考え、現代的なデザインも考案する。そうした姿勢は周囲の評価を集め、伊万里・有田焼伝統工芸士会会長を託されていたが、つねに自然体で驕ることはない。それは、自分を育ててくれた先輩たちへの感謝の気持ちを持ち続けているからだ。

「自分を生かしてくれるすべてに感謝する」「自分が花になるのではなく、人を咲かせる肥やしになる」という先輩の言葉に導かれ、陶工としても、一人の人間としても、努力精進の日々はこれからも続く。

生かされ、生きるチカラ。

生ずれば滅す

二月十五日は、釈尊の入滅された日、涅槃会です。釈尊のお徳を讃えると同時に、生きるうえで大切なことをかみしめ直す日でもあります。生と死の真実を明らかに知り、生じたものは必ず滅すること、死はだれにも公平、平等に訪れることを胸に刻むのです。

生を離れて死はなく、死を明らかにしてこそ生が輝きます。生死は一如、生と死は一つであります。このようにとらえると、死をいたずらに恐れ、忌み嫌うことはなくなり、亡き人の生きた証をかみしめて「私もあのように生きよう」と良いところを学び、讃歎することにつながります。その意味で私たちもまた、人の心に輝きを放つような人生を歩みたいと思うのです。

立正佼成会

www.kosei-kai.or.jp　Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615